

経営体育成支援事業目標達成状況報告書(4年度目)

都道府県名	市町村名	地区名	事業実施年度	目標年度	事業実施主体
北海道	シホロ 土幌町	ニシカミ 西上	平成25年度	平成27年度	土幌町

I 地区の成果目標

(単位:経営体、%)

項目	目標 達成状況(上段:計画、下段:実績)				4年度目 達成状況 (%)
	1年度目	2年度目	目標年度 (3年度目)	4年度目	
① 経営面積の拡大	2	4	4	4	75%
	1	3	3	3	
② 耕作放棄地の解消					
③ 農業の6次産業化					
④ 農産物の高付加価値化	1	2	2	2	0%
	0	0	0	0	
⑤ 農業経営の複合化					
⑥ 農業経営の法人化	0	1	1	1	0%
	0	0	0	0	
⑦ 雇用	1	1	1	1	100%
	1	1	1	1	

II 経営体の成果目標

No	対象経営体名	項目	現状	目標 達成状況(上段:計画、下段:実績)				4年度目 達成状況 (%)	実績を確認した資料名等
				1年度目	2年度目	目標年度 (3年度目)	4年度目		
1	A	経営面積の拡大(ha)	54.0(1戸) (自41.5借12.5)	54.0(1戸) (41.5+12.5) 54.0(4戸) (41.5+12.5)	60.0(2戸) (41.5+18.5) 54.2(4戸) (41.7+12.5)	60.0(2戸) (41.5+18.5) 54.2(4戸) (41.7+12.5)	60.0(2戸) (41.5+18.5) 54.2(4戸) (41.7+12.5)	3.3%	・農地台帳
		農産物の高付加価値化 (菜豆(大正金時)導入:ha)	大豆 3.5 小豆 5.5	大豆(光黒) 3.5 エリモシヨウズ 5.5 大正金 2.0 大豆(光黒) 3.8 エリモシヨウズ 4.6 大正金 0.0	大豆(光黒) 4.5 エリモシヨウズ 6.0 大正金 2.0 大豆 3.8 エリモシヨウズ 0.0 大正金 0.0	大豆(光黒) 4.5 エリモシヨウズ 6.0 大正金 2.0 大豆(祝黒) 4.3 エリモシヨウズ 5.1 大正金 0.0	大豆(光黒) 4.5 エリモシヨウズ 6.0 大正金 2.0 大豆(祝黒) 3.8 エリモシヨウズ 0.0 大正金 0.0	0.0%	・共済細目書等
2	B	経営面積の拡大(ha)	58.3(2戸) (自50.6借7.7)	58.6(3戸) (50.6+8.0) 67.9(2戸) (50.6+17.3)	58.6(3戸) (50.6+8.0) 59.2(2戸) (51.5+7.7)	58.6(3戸) (50.6+8.0) 59.1 (51.4+7.7)		266.6%	—
		農業経営の法人化	0	0 0	1 0	1 0	1 0	0.0%	—
3	C	経営面積の拡大(ha)	93.1(5戸) (自0.0借93.1)	93.1(5戸) (0.0+93.1) 104(6戸) (6.5+97.9)	95.1(5戸) (0.0+95.1) 100.0(5戸) (6.5+93.5)	95.1(5戸) (0.0+95.1) 104.4(5戸) (10.9+93.5)		565.0% (5戸)	—
		雇用(常勤雇用者:人)	4	5 5	5 5	5 5	5 5	100.0%	—
4	D	経営面積の拡大(ha)	239.7(8戸) (自107.8借131.9)	260(8戸) (107.8+151.9) 239(8戸) (107.4+131.9)	260(8戸) (107.8+151.9) 293(9戸) (109.4+183.9)	260(8戸) (107.8+151.9) 293(9戸) (109.4+183.9)		268.0%	—
		農作物の高付加価値化 (ゆめちからの交付金単価:円/60kg)	きたほなみ 6,450	きたほなみ 6,450 きたほなみ 6,450(59.5ha) ゆめちから 0(0.0ha)	きたほなみ 6,450 ゆめちから 9,000 きたほなみ 0(0.0ha) ゆめちから 8,960(56.4ha)	きたほなみ 6,450 ゆめちから 9,000 きたほなみ 0(0.0ha) ゆめちから 8,960(54.5ha)	きたほなみ 6,450 ゆめちから 9,000 きたほなみ 4,600(56.5ha) ゆめちから 0(0.0ha)	0.0%	・共済細目書 ・小麦受入生 産者別明細書

III 達成状況に関する事業実施主体の所見(評価)

<p>地区の成果目標4項目のうち1項目(雇用)が目標年度に目標を達成している。4年度目は「経営面積の拡大(75%)」「農産物の高付加価値化(0%)」「法人化(0%)」が目標を達成することができなかった。</p> <p>・「経営面積の拡大」は農地の取得を希望しているが調整が整わなかったため目標達成に至らなかった。今後目標を達成できるよう、農業委員会等の関係機関との連携や、近隣町村の離農等の情報収集し平成30年度での農地取得を目指す。</p> <p>・「農産物の高付加価値化」は、交付金単価の減少に加え、1経営体(大正金時)については、価格低下を受け経営の維持を優先するため作付に至らず、また、1経営体(小麦ゆめちから)については、本人に作付希望があるものの、土幌町管内での作付面積の割当や所属する麦作組合内での割当の関係により、作付には至らなかった。今後、関係機関等との連携により平成29年度の達成を目指す。</p> <p>・「農業経営の法人化」は経営主の死亡事故により設立の目処が立たず、1経営体で目標達成に至らなかった。今後は関係機関と連携し平成30年度の達成を目指す。</p>
--